

2012 年 10 月 1 日 NEWS RELEASE No.90

10 月 1 日、『醤油の日の集い』開催！

宮城県寿司商生活衛生同業組合 様と

株式会社吉田ふるさと村 様に「醤油地域貢献賞」を授与！

日本醤油協会（会長 濱口道雄）では、昨年度から「地域」でのしょうゆの価値の高揚、しょうゆを通して食文化の伝承に尽力された方、或いはしょうゆに関する学術研究に功績のあった方を顕彰する「醤油地域貢献賞」を創設いたしました。

全国を 8 つのブロックに分け、毎年 2 ブロックずつ顕彰してまいります。今年度（平成 24 年度）は、東北ブロックの「宮城県寿司商生活衛生同業組合」様と、中国ブロックの「株式会社吉田ふるさと村」様にお贈りすることとし、10 月 1 日にロイヤルパークホテルで開催される『醤油の日の集い』（主催：日本醤油協会、全国醤油工業協同組合連合会）において、発表並びに授与式が行われます。

東北ブロックで受賞の「宮城県寿司商生活衛生同業組合」様は、『東日本大震災からの復興の軌跡』と銘打った記録誌を編纂しました。東日本大震災における宮城県内の寿司組合員の被災状況と復興の現況を後世に残し、災害対策の一助となるべく作成されたものであり、日本全国の寿司組合を通じ、多くの方に配布されました。

その誌面において、「しょうゆ」は、寿司を支える食材として取り上げられ、「地域の食材を引き立てるためにも、（醤油）工場の本格復興が待たれる」という上記団体のコメントとともに紹介されました。

宮城県醤油業界の被災状況や復旧・復興の現状を掲載し、寿司業界より全国に周知されたことは、たいへん意義のあることであり、食文化におけるしょうゆの存在感をアピールし、価値を高めたことが高く評価され、この度の受賞となりました。

中国ブロックで受賞の「株式会社吉田ふるさと村」様は、昭和 60 年（1985 年）、自治体（当時の吉田村）と地域住民が共同で出資をする第三セクターとしてス

タート。

地域の農産物を主原料とした加工食品の開発製造販売を主軸に、多彩な事業を展開しています。なかでも、しょうゆをベースにみりんとかつおだしを混ぜた日本初の「たまごかけごはん専用しょうゆ“おたまはん”」の開発は、世にたまごかけごはんブーム、そして、専用調味料ブームを巻き起こしました。

また、平成 17 年から、日本の食の定番、たまごかけごはんにスポットを当てた「日本たまごかけごはんシンポジウム」を毎年継続して開催するなど、新しいジャンルの商品を作り上げ、定着させることにより、地域の醤油業界にも多大な貢献をいただきました。

両団体（会社）のこのような活動が、地域のしょうゆの発展に大きく貢献されたことを称え、「醤油地域貢献賞」を贈り顕彰することとしました。

●「宮城県寿司商生活衛生同業組合」様の概要

宮城県内に 15 の支部があり、計 224 の寿司店が加盟（平成 24 年 4 月 1 日現在）している寿司組合。理事長は、深瀬和夫氏。

東日本大震災では、組合員の多くが被災したが、組合員一丸となって、復旧復興に取り組んでいる。

住所：〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町 1-8-17 仙台たばこ販売協同組合 2 階。T E L：022-265-3814。

●「株式会社吉田ふるさと村」様の概要

昭和 60 年設立。代表者：代表取締役社長・高岡裕司氏。事業内容：農産加工品の製造・販売、市民バスの運行、旅行業、たまごかけごはんなどを提供する

「～Unnan Otama Cafe～おたまはん」の営業など。従業員数：61 名。

雇用の場の創出と地域経済の活性化を目的に、第三セクターとしてスタート。地域の農産物を主原料とした加工食品の開発製造販売を主軸としてきたが、平成 14 年に発売した卵かけごはん専用しょうゆ「おたまはん」がヒットし、一躍脚光を浴びた。平成 17 年からは、「日本たまごかけごはんシンポジウム」を毎年開催している。

所在地：〒690-2801 島根県雲南市吉田町吉田 1047-2

T E L：0854-74-0500。



※下記URLをクリックすると、大きいサイズの画像がご覧になれます
<http://www.soyssauce.or.jp/tudoi/tiiki2012.jpg>

以上の件に関する取材のお問合せは

しょうゆ情報センター（醤油PR協議会）
大関 恒雄（事務局長）、中川美代子
住所 東京都中央区日本橋小網町3-11（〒103-0016）
電話 03-3666-3286 FAX 03-3667-2216
URL : <http://www.soyssauce.or.jp/> E-mail : soyic@soyssauce.or.jp